



月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第19号

発行:レムナントキリスト教会

価格:100円（送料込みで200円）

〔目次〕

- ◎聖書からのメッセージ:神と和解すること エレミヤ
- ◎高ぶりを打ち砕く:進化論の誤り(15)「エントロピーの法則は進化論を否定する」
- ◎箴言から学ぼう!:誠実な歩みに目を留めてくださる神さま
- ◎詩篇を読む:神さまは実在するお方
- ◎キリストを信じた体験談:子どもたちの祈り フィベ
- ◎聖書に関する偉人のことば:ヴィクトル・ユーゴ
- ◎ご案内:聖書贈呈、聖書通信講座

<聖書からのメッセージ>

神と和解すること

by エレミヤ

最近時々、終活ということばを聞くことがあります。意味としては人生の終わりに備えること、というような意味合いなのでしょう。本人が死んでも周りの人が混乱したり、困らないように、前もって葬式の用意をしたり、遺品を整理したり、遺言を書いたり、墓を立てたり、ということが奨励されているようです。

なるほど、随分用意周到だな、と感心すると共に、若干個人的には違和感を覚えることばでもあります。違和感？個人的な意見で恐縮なのですが、「墓を立てるよりもっと先にすることがあるのでは？」という違和感を私は覚えるのです。

<死後私たちは神の裁きの座に立つ>

多くの日本人にとり、人は死後どこへ行くのか？どのような運命が待っているのか？このような問いに関して、漠然とした答えしかないように思えます。そんなことは学校では習わないので、仕方が無いとも言えますが、人の死後のことに関して、聖書ははっきりと明確な未来について語ります。

[聖書箇所]ヘブル人への手紙9:27

9:27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている

ここで言うさばきとは、すなわち裁判のことです。この聖書の箇所を考えてみましょう。このようなことが言われていると思われず。どんな人間でも、人生で一度必ず経験することがあり、それは（死）を経験することなのです。たとえその人が金持ちであろうと、有名人であろうと、はたまた国の王であろうと、決して避けられない経験があり、それはどの人も必ず人生で一度死を経験することなのです。古今東西、死を免れた人間など一人もいない、存在しない

神と和解すること エレミヤ

のです。このことは誰でも知っていることです。さて、このことと同じ意味合いで、さらにもうひとつ誰一人逃れられない経験があり、誰でも通過する経験が死後待っています。それは誰でも死後必ず神の前に立ち、自分の生前の行いに関して裁判を受けることである、これがこの箇所が語っていることなのです。

<罪の罰を払う>

裁判とは単に判決が下され、有罪、無罪が言い表されてそれで終わり、というわけではありません。それに付随して有罪とされた人は牢屋に入れられたり、罰を受けたりするようになります。同じことが死後の裁き、裁判に関しても行われます。以下のように書かれています。

〔聖書箇所ヨハネの黙示録20:12,15〕

20:12 また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行ないに応じてさばかれた。

20:15 いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。

ここでは死後の裁判の様子が描かれています。ここに「数々の書物が開かれた。」と書かれていますように、私たちの生きている間に行ったこと、語ったこと、これらのすべては神の前に記録され、書物に記されているのです。そして、「死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行ないに応じてさばかれた。」と書かれていますように、私たちはそれらの記録に従い、良い報いを受けたり、悪い罰を受けたりするのです。

罰に関しては、「いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。」と記されています。裁判の結果次第では誰でも死後、火の池に投げ込まれる可能性があることが分かるのです。生きている今でも誰も火の池など入りたくありませんし、死後でもやはりそんな所には入りたくないものです。何とかそのような所に入らないよう、今準備をする、それこそがもっとも大事な終活であり、生前にお墓を立て

るよりも大事なことだと思われま

<道の途上にある間に神と和解すべきである>

聖書もこのことを勧めており、私たちがまだ人生の途上にある間に神と和解し、死後裁判で厳しい判決を受け、火の池になど投げ込まれないよう、勧めているように思えます。以下の箇所を見てください。

〔聖書箇所マタイの福音書5:25,26〕

5:25 あなたを告訴する者とは、あなたが彼といっしょに途中にある間に早く仲良くなりなさい。そうでないと、告訴する者は、あなたを裁判官に引き渡し、裁判官は下役に引き渡して、あなたはついに牢に入れられることとなります。

5:26 まことに、あなたに告げます。あなたは最後の1コドラントを支払うまでは、そこから出ては来られません。

ここでは誰かに告訴されたら、その道の途上にいる間にその訴える相手と和解することが勧められています。このことは現代でもそうです。もし、私たちが人を殴ったりして相手が訴えそうになったら、早く相手に謝り、示談金を払ってでも和解したほうが良いのです。そうすれば相手も訴えを取り下げてくれ、私たちが裁判所で裁かれたり、有罪で刑務所に入れられたりしないで済むからです。

訴える相手には、まだ途上にいる間に謝罪し和解したほうが良いのです。もし、このことを放っておき、相手との和解を怠り、裁判を迎え判決が下されるなら、もう逃れようがないのです。大事なことは、「まだ途上にいる間に和解すること」なのです。これを死後の裁判のことに当てはめるなら、私たちは自分の人生が、まだ続いている間、まだこの人生の途上にいる間に神と和解すべきなのです。もし、これを怠り、死後の裁判の場に呼び出された後では、もう和解の余地はなく手遅れなのです。

<キリストは和解のための道>

さて、このことに関して私たちにとって、とても良いニュース、福音、良い知らせがあります。それは、以下のことばです。

神と和解すること エレミヤ

〔聖書箇所 II コリント人への手紙5:18-20〕

5:18 これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。

5:19 すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです。

5:20 こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。

ここに、「神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ」と書かれていますように、神の望み、願いは、私たちを誰でも彼でも火の池に投げ込むことではありません。そうではなく、私たちがその道の途上にある間に神と和解し、神との関係を糾すことなのです。

「神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです。」

人を殴ったりしたら和解するには、和解金を払ったり、代償が必要になります。我々が死後火の池に入らないためには、私たちがその人生で犯した罪を誰かが負い、弁済し、払わなければならないのです。そして驚くべきことは、神はその違反行為の責めや罰を私たちに負わせず、代わりにキリストに負わせたのです。

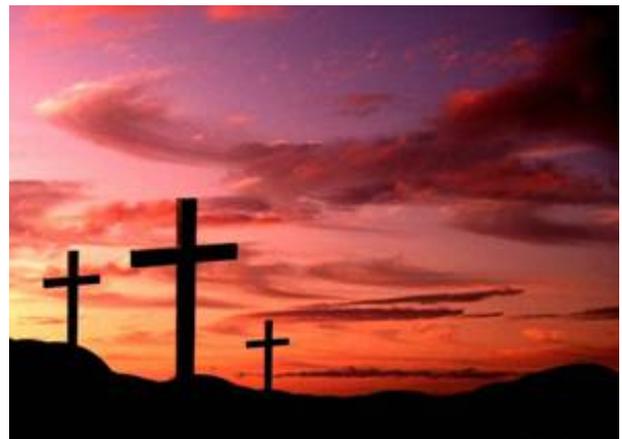
キリストの十字架の死の意味合いは、我々が受けるべき罰をキリストが代わりに受けた身代わりの死であり、身代わりの罰なのです。何だか都合が良いようですが、まさしくこれが、神が私たちのために用意した和解の道なのです。私たちの罪が赦され、罰を免れるため、聖書はこれ以外の方法を語っていません。

「ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。」

ここでは神が我々に対して、神との和解の申し出を受けるべく、懇願していることさえ、書かれています。すなわち、私たちが自分の人生

の途上で神と和解することなく、裁判の日を迎えるなら、火の池に入ることは確定なので、それで神はあたかも懇願するように、この神の用意した和解の方法、キリストの十字架の死により和解する、という方法を受入れるよう、私たちに勧めているのです。

上記ことば、「ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。」とは、2000年前のキリスト教の伝道者パウロのことばです。そしてパウロ以来今に至るまで、教会はこの神との和解を人々に呼びかけてきました。なぜなら、聖書に書かれた死後の裁きの日は、誰にでも必ずやって来るからです。それならば手遅れになる前、その前に和解したほうが良いのです。そして21世紀の今もパウロの後を継ぎ、この国、日本のクリスチャンである私たちもこのように、人々に呼びかけるのです。是非この神が申し出られた和解、キリストの十字架の死による和解という方法を受け入れて下さい。



キリストの犠牲により神と和解する

高ぶりを打ち砕く：進化論の誤り(15) エントロピーの法則は進化論を否定する

人はどこから誕生したのか？その問題に関して聖書は「神が人を創造した」と述べます。しかし、日本においては、学校で進化論が教えられており、人は猿から進化したと説きます。では、その進化論は正しいのか？それをこのシリーズで見えています。

熱力学には、有名な「エントロピーの法則」というものがあります。これは確実な科学的真理とされているもので、一言で言えば、「覆水盆に返らず」という諺の意味するものと同じです。すなわち、盆から水をこぼしてしまったとき、その水は決して自然に元へ戻ることはありません。また花瓶を壊してしまったとき、その花瓶は決して自然に元へ戻ることはありません。リンゴの木から切り離されたリンゴの果実は、時間と共に次第に腐っていきます。バナナでも、ミカンでも、野菜でも、必ず腐っていきます。そしていずれは、完全に分解して土に帰るのです。逆方向の変化が起きることはありません。

人間もそうです。人が死に、肉体から生命が去ると、肉体はしだいに腐敗していき、ついには完全に分解して土に帰ります。このように物は次第に、より低い質のエネルギーの状態に必ず移行して行く傾向を持っています。これを「エントロピーが増大する」と言います。

「エントロピー」とは、“無秩序さ” “でたらめさ” のことと考えたら良いでしょう。それが時間と共に増大するのです。物は、高度な秩序形態から次第に、“無秩序さ” “でたらめさ” を増して、より低い秩序形態へと移行していくのです。自然な状態では、エントロピー（無秩序さ）は、必ず増大の方向へ向かいます。

エントロピーが減少するのは、外部からエントロピーを減少させるような“働きかけ”がある場合だけです。たとえば、水は自然の状態では必ず上から下へ落ち、エネルギーの低い状態へと移行し、エントロピーは増大します。しかし、もしポンプを使えば、水を低い所から高い所へ上げることも出来ます。この場合、エントロピーは減少したことになりますが、これは外部からそのような働きかけがあったからです。また、壊れた花瓶は自然には元へ戻りませんが、人がもし、土から様々な技術を用いて新たな花瓶を製作するならば、新たな花瓶を誕生させることが出来ます。この場合もエントロピーは減少したことになりますが、それは外部からの働きかけがあったからです。このように、エントロピーは減少することもあります。それは外部からエントロピー

を減少させるような働きかけがあった場合のみです。これが、「エントロピーの法則」と呼ばれるものですが、これは進化論に有利でしょうか？それとも不利でしょうか？

エントロピーの法則は、進化論には全く不利であり、進化論を完全に否定するものです。なぜなら、エントロピーの法則は、「無生物から生物への進化」を全く不可能とするからです。今日、科学の発達により生物の細胞は、きわめて高度な秩序形態を持っていることが明らかにされました。数百倍の顕微鏡しかなかった時代には、細胞の構造は単純なものと思われましたが、以後の研究により、細胞はたとえ単細胞生物のものでも、きわめて微細で複雑な構造を持っていることが分かったのです。それはちょうど人間の都市のように、きわめて高度な秩序形態を持っているのです。

このようなものが、無生物から自然の過程を通して生じたとする進化論は、全くエントロピーの法則に反しています。無生物から細胞という高度な秩序形態へと移行することは、自然の過程では決して起こり得ないのです。そのような移行が可能となるのは、ただ、外部からそれを可能にする“働きかけ”があった場合だけです。「偶然」は、このような働きかけとはなり得ません。聖書には、たとえば動物の誕生についてこう記されています。**「神である主が、土からあらゆる野の獣と、あらゆる空の鳥を形造られたとき・・・」**(創世記2章19節)

このように、神が動物を創造したと語る聖書の記述は、エントロピーの法則によるなら、全く合理的な記述なのです。



りんごが偶然に進化したと語る進化論はエントロピーの法則と矛盾する

箴言から学ぼう！誠実な歩みに目を留めてくださる神さま

〔聖書箇所〕箴言19:1

19:1 貧しくても、誠実に歩む者は、曲がったことを言う愚かな者にまさる。

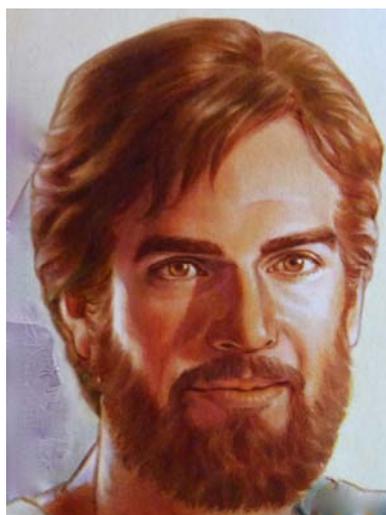
ここに、「誠実」ということばが使われています。世の中でも、このことばは、時として言われていると思います。「あの人は誠実だよねえ。」なんていう風に、です。そして、聖書においても、「誠実」ということが奨励されている、ということを経験の箇所から理解出来ると思います。

「貧しくても」のことばに続いて「誠実」ということが言われているのですが・・・一般的に「貧しい」と聞くと、お金をほとんど持っていないとか、生活するのが困難とか、そういうことをイメージすると思います。たしかに、そういったことも一理、あるのかも知れません。でも、聖書において、「貧しい」ということばは、神さまを頼る人のたとえとしても、使われています。

ですので、たとえお金に困っていたとしても・・・つまり、あまりお金を持っていないとしても・・・そして、神さまに頼っていくしか生きる手段が無いとしても・・・けれども、「誠実」に歩いていく、というときに、「曲がったことを言う愚かな者(KJV訳:意固地な人)」にまさる、ということが言われているのです。誠実に歩いていく、ということを、神さまが好まれ、奨励されている、ということを経験出来るはずよね？

大分前に、外国人のクリスチャン女性の書かれた本の一部に、「ある時、神さまは私に語りかけを与えてくださいました。そして、そのことを人々にお伝えするように、と言われました。それは何か？と言うと、『私(神さま)に誠実に心を委ねなさい。』というものでした。」ということをおっしゃっておりました。もし、彼女の言われたことが本当に神さまからの語りかけだとしたら・・・(私個人は、そうだと信じているのですが・・・)このことは、守るべきですし、実践に値するものなのでは？という風に思います。

今回は、聖書のことばから、私たちの誠実に神さまが目を留めてくださること、そして、そのことを神さまがお喜びになる、という点についてお話させていただきましたが・・・多少なりとも、ご理解いただけましたら、幸いに思います。



誠実な歩みをご覧になる神さま(イエスさま)

詩篇を読む:神さまは実在するお方

〔聖書箇所〕詩篇14:1

14:1 愚か者は心の中で、「神はいない。」と言っている。彼らは腐っており、忌まわしい事を行なっている。善を行なう者はいない。

今さらではありますが・・・神さまが実在するのか、しないのか？ということですが、皆さまはどのように思われていらっしゃるでしょうか？時折、「無神論」ということばを耳にすることがありますが、果たして、聖書ではどのように言われているのでしょうか？

今回の箇所において、「**神はいない。**」と言う時に・・・すなわち、神さまの存在を否定する場合に、「**愚か者**」だということを言われています。このことは、裏返して言うなら、神さまは存在するのですよ～、ということをはっきりと言われているのです。同じようなことを語っている箇所がありますので、よろしければ、見てみましょう。

〔聖書箇所〕ローマ人への手紙1:19,20

1:19 **なぜなら、神について知りうることは、彼らに明らかであるからです。それは神が明らかにされたのです。**
1:20 **神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。**

19節では、神さまが明らかにされたことを言われています。さらに20節では、「**被造物**」によって、神さまの本性や神性がはっきりと認められる、ということも言われています。ゆえに、「**弁解の余地はないのです。**」とありますように・・・神さまはいない、などと言ってしまう場合に、弁解はありませんよ～、ということをおっしゃっています。

これらの箇所を通して、たとえ目には見えなくても、しかし、神さまが実在する、ということが分かりましたが・・・では、神さまは一体どこにいるのでしょうか？そのことも、聖書に書いてありますので、見てみたいと思います。

〔聖書箇所〕Ⅱ歴代誌20:5,6

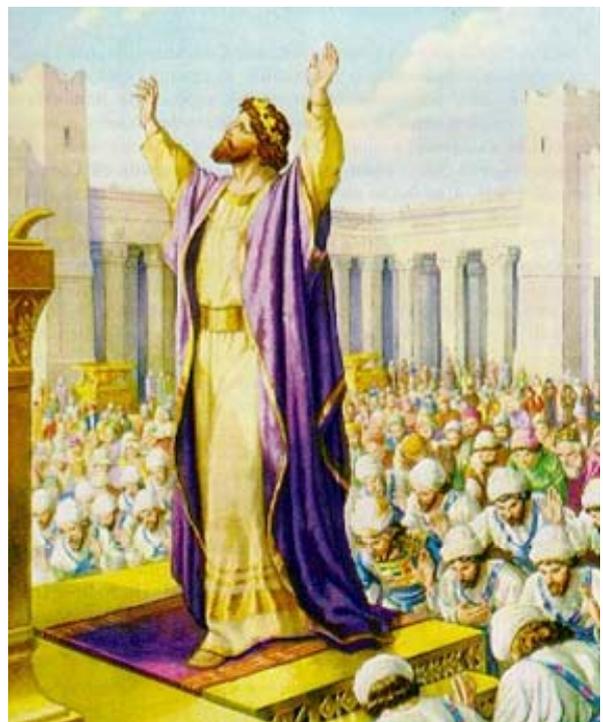
20:5 **ヨシャパテは、主の宮にある新しい庭の前で、ユダとエルサレムの集団の中に立って、**
20:6 **言った。「私たちの父祖の神、主よ。あなたは天におられる神であり、また、あなたはすべての異邦の王国を支配なさる方ではありませんか。あなたの御手には力があり、勢いがあります。だれも、あなたと対抗し**

てもちこたえうる者はありません。

「**私たちの父祖の神、主よ。あなたは天におられる神であり～**」とありますように、神さまは、「**天**」におられる、ということをご理解いただけるかと思えます。

余談ではありますが・・・大分前に、某クリスチャンから聞いた話なのですが・・・その方は学生の頃、クリスチャンになったそうです。そして、「私はクリスチャンになる前から、なぜだか、神棚には神さまは居ないと思っていた。」ということをおっしゃっていました。そして、「でも、そのことは正解だった。今にして思うと・・・ノンクリスチャンの時に、また、無意識のうちにも、きっと神さまは、私にそういった思いを心に入れてくれたのだと思う。それで、クリスチャンになって、そのことに合点がいくようになった。神棚に神さまが居ないのは、本当だった。」と言われていましたが、このお話は、神さまは天におられる、ということばと、まさしく符号するのではないかなあ・・・と思います。

今回は、神さまが実在されること、そして、神さまが天におられる、ということに関して、改めてお話させていただきましたが・・・多少なりとも、ご理解いただけましたら、幸いに思います。



集団の中に立って、お祈りを捧げるヨシャパテ王

キリストを信じた体験談:子どもたちの祈り フィーブ

クリスチャンになる前、お祈りするというのは、寺社仏閣に行くことでした。それがクリスチャンになってからは大きく変わりました。どこにも行かなくても、いつでも祈れるのです。

「ことばが私の舌にのぼる前に、なんと主よ、あなたはそれをことごとく知っておられます」(詩編139篇4節)とありますように、祈る前から神様が自分の状態や心を知っておられ、祈りが聞かれるのです。これは本当に安心です。

この「祈り」について、子どもたちの体験を通し学ばされた出来事がありました。今から20年ほど前、洗礼を受けて1年も経たない頃です。当時私たちはアメリカ南部の町に住んでいました。夏は35度以上湿度95%以上の亜熱帯のような場所でした。激しい雷雨で車が立ち往生することもありました。竜巻注意報もしばしば出る所でした。秋の初めで、まだ暑さ厳しい頃です。いつも通りに車で子どもたちを迎えに行きました。子どもたちは自宅から少し離れた教会経営の学校に通い、当時娘は小学校低学年、息子は幼稚園でした。その日は普段より風が強く、大きな木の枝が折れ、沢山道路に落ちていました。今日はやけに運転しにくいなど感じつつ学校に着くと、多くの父兄が集まり、子どもたちと抱き合ったりしていました。何事かと思いました。その日、郊外をはじめ、竜巻があちこちで起こっており、子どもたちの学校の上空を通過するという緊急連絡があったそうです。竜巻が下りてきていたら大惨事の可能性があります。まさかそんな緊急事態が起きていたとは・・・。事情を知り、ぞっとしました。何事でも危険を感知しないことは恐ろしいことだと思いました。

娘の話によると、2階の教室で授業中、竜巻が来ると突然放送があり、1階に下りて行くと警報のベルが鳴り、廊下で屈んでいたそうです。さらに、トイレに避難するように指示され、壁に向かい手で頭をかばい床に体を伏せてじっとしていたそうです。恐ろしさで泣き出す子どももいたようです。そんな緊張状態の中、一緒に床に伏せていた娘の友人が、「お祈りをしよう。」と声をかけてきたそうです。さらに、「もう1人の友達にもお祈りしようと伝えて。」と言われ、娘がもう1人を誘い3人で一緒にお祈りしたそうです。3人で祈り終わり

「アーメン。」と言った途端、警報の解除の放送があったそうです。娘は「とても不思議だった。その時お祈りが聞かれたと思った。」と言っていました。

まだまだ幼い子どもたちが、危機的状況でお祈りを一緒にしようとし、3人で祈ったということは驚きでした。子どもたちは純粋に神様に助けを求めて一緒に心を合わせて祈りました。子どもたちの祈りが終わった途端に竜巻の危機が無くなったことも、本当に不思議なことでした。その祈りに神様が即座に答えてくれたように思います。幼い子どもが、素直に神様が助けしてくれると信じて共に祈った信仰を主は喜ばれたのだと思います。

大人になると、ついつい自分の力を過信し、自力でなんとかしようとしがちです。でも、力の無い子どもたちは、素直に神様に頼りにしています。いつも神様に頼り、祈ることを教えられた出来事でした。イエス・キリストは、弱く助けを求める者を助け出してくださる方です。子どもたちの祈りをないがしろにされません。幼く祈りが拙くても、その祈りはきかれるのです。素直に神様に信じ、頼っていくことは本当に幸いなことだと思います。

〔聖書箇所〕ルカの福音書18:17

「まことにあなたがたに告げます。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに入ることはできません。」

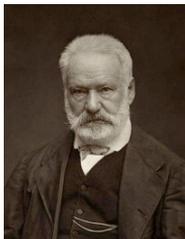


祈る子供たち

聖書に関する偉人のことば: ヴィクトル・ユーゴのことば / お知らせコーナー

<聖書と偉人>

フランスのロマン主義詩人、小説家



ヴィクトル・ユーゴ

イギリスは二つの書物を持っている。その一つは聖書であり、残りはシェイクスピアである。
イギリスがシェイクスピアを作ったのだが、聖書が、そのイギリスを作ったのである。

<お知らせコーナー>

●聖書贈呈プレゼント！聖書通信講座！

月刊バイブルお読みになっていかがでしたか？少し、聖書に興味がわいてきましたでしょうか？このたび、当教会では聖書贈呈、プレゼントを行っています。この機会に聖書をあなたも読んでみませんか？また、ご希望の方には、聖書通信講座も開設しました。申込者全員へ、贈呈可能です。ご興味がありましたら、ぜひ、お申し込みください。

以下を記載の上、mail:truth216@nifty.com もしくは fax:020-4623-5255 もしくは tel:042-364-2327 へ連絡ください。

- (1) 聖書贈呈に申し込みます。
 - (2) 聖書通信講座に申し込みます。
- *ご希望の番号に○をつけてください。(複数可)

郵便番号:

住所:

名前:



見本

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間: 毎週日曜日 / 午前 10:30-12:30, 午後 14:00-16:00

場所: 東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館 (tel:042-360-3311)

1F のエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。
どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、「Yahoo! Japan」で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。

尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト: オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト: パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト: エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト: 終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>